

所蔵作品展「MOMATコレクション」

2019年6月4日[火] – 10月20日[日]



猪熊弦一郎《驚く可き風景(B)》1969年

©The MIMOCA Foundation



岡部嶺男《練込志野縄文花器》1956年

撮影者：尾見重治 ©2007

■ 今期のみどころ

① 明治から平成まで、1時間でたどる時間旅行

20世紀はじめから今日に至る日本の近現代美術の流れを、国際的な関連も含めてご紹介するMOMATコレクション。第1室は「ハイライト」コーナーで、当館選りすぐりの名品がまとまっています。第2室から第12室にかけては、明治から現代まで時代を追って、日本の美術の流れをたどることができます。

② 第7・第8室：1950–60年代の古代ブームにまつわる造形をデザインや工芸を含めご紹介

1950年代から60年代に、埴輪や土偶といった考古遺物「土から出てきた」ような形の作品が多く登場しました。当時のいわゆる「古代ブーム」を、さまざまなジャンルの作品と資料によって紹介します。

③ 第11室：企画展「高畑勲展—日本のアニメーションに遺したもの」関連特集

高畑勲に『十二世紀のアニメーション—国宝絵巻物に見る映画的・アニメ的なもの』という著作があることにちなんだ特集です。「時間」や「動き」について考えることのできる絵巻、写真等の作品を紹介します。

④ ギャラリー4：コレクションによる小企画「解放され行く人間性 女性アーティストによる作品を中心に」

女性画家である丸木俊（赤松俊子）の新収蔵作品《裸婦（解放され行く人間性）》をはじめ、女性アーティストによる作品を紹介します。男性画家が描いた女性像や、セクシャリティを問う男性アーティストによる作品も併せて展示します。会期は6月18日-10月20日です。

⑤ 3F 建物を思う部屋：資料展示をお見逃しなく

当館は1952年、現在国立映画アーカイブが立つ中央区京橋の地に開館しました。竹橋新館が開館したのは1969年6月11日。会期中に竹橋移転50周年を迎えるにあたり、当時の資料をささやかに展示します。

プレス用イメージ・取材、展覧会内容など報道関係のお問合せ先：東京国立近代美術館 美術課広報担当(岩田)

TEL: 03-3214-2565 / FAX: 03-3214-2576 e-mail: pr-f@momat.go.jp

〒102-8322 東京都千代田区北の丸公園3-1

■ 作品解説をお手持ちのスマホで

所蔵作品展「MOMATコレクション」の作品解説(和英中韓の4ヶ国語)を、お客様ご自身のスマートフォンでダウンロードしてお楽しみいただけるサービスを行っています。まずは「Catalog Pocket」というアプリをインストール。展示中の作品のうち、約80点の作品解説を4ヶ国語でご覧いただけます。解説を自動読み上げ音声で聞くこともできます。完全無料です。なお、この事業はDNP大日本印刷のご協力によるものです。

■ キュレータートーク

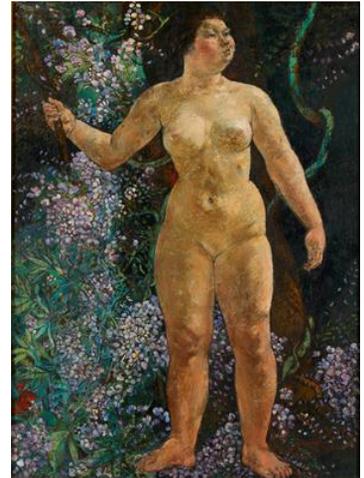
6月8日(土)14:00～15:00 増田玲(主任研究員)
 7月21日(日)11:00～12:00 中村麗子(主任研究員)
 8月24日(土)14:00～15:00 保坂健二郎(主任研究員)
 9月14日(土)18:00～19:00 鶴見香織(主任研究員)
 10月13日(日)11:00～12:00 都築千重子(主任研究員)
 *テーマ等詳細は当館HP(<http://www.momat.go.jp/am/exhibition/>)にてご確認ください。

■ 所蔵品ガイド

毎日1時間ほど、対話を交えたギャラリートークを行っています。最大の特徴は、作品解説を聞く一方向的なものではなく、参加者主体の鑑賞プログラムであること。当館解説ボランティア「MOMATガイドスタッフ」が参加者のみなさまと一緒に展示室をまわり、みなさまとの対話を進めながら、数点の作品を鑑賞します。ガイドスタッフを案内役に、みなさまは作品を自由に感じ、想像をめぐらせ、それを言葉にして語り合います。作品と向き合い、他の人との対話によって深く作品を掘り下げていく感覚は、まるで謎解きのようにも、新たな作品の魅力を発見していただける機会となるでしょう。

日時: 休館日を除く毎日、14:00-15:00

場所: 所蔵品ギャラリー(1Fエントランス集合)。要観覧券。参加は無料。



丸木俊(赤松俊子)《解放され行く人間性》1947年



巖光《眼のある風景》1938年



所蔵品ガイドの様子

■ 画像の貸出について

所蔵作品展「MOMATコレクション」に出品中の作品は、どれも**無料(広報扱い)**で画像を貸し出しています。貸し出しの**条件**は次のとおりです。

1. 展覧会(所蔵作品展「MOMATコレクション」)の会期中に発行される記事であること。
2. 掲載時には展覧会名(所蔵作品展「MOMATコレクション」)と会期、掲載作品が展示中である旨を記してください。
3. 原則として、トリミングや文字載せはお断りします。
4. 著作権の保護期間内にある作品については、著作権者の許可をとってください。
ただし、このプレスリリースに掲載されている画像については、著作権の保護期間にある作品もご利用になれます。
5. 画像の二次使用は原則できません。
6. 作品によっては、カラー画像が未撮影の場合もあります。事前にお問い合わせください。
7. 会期外の使用は、DNPアートコミュニケーションズ(<https://images.dnpartcom.jp/>)へご申請ください。有料です。

展覧会概要

タイトル	所蔵作品展「MOMATコレクション」
会期	2019年6月4日[火]－10月20日[日] * ギャラリー4のみ 6月18日[火]－10月20日[日]
開館時間	10:00－17:00 金曜・土曜は20:00まで(入館は閉館30分前まで) 7月2日－10月6日の金曜・土曜は、21:00まで(入館は閉館30分前まで)
休館日	月曜日(ただし7月15日、8月12日、9月16日、9月23日、10月14日は開館)、7月16日[火]、8月13日[火]、9月17日[火]、9月24日[火]、10月15日[火]
主催	東京国立近代美術館
会場	東京国立近代美術館 本館 4～2階 〒102-8322 東京都千代田区北の丸公園3-1
アクセス	東京メトロ東西線竹橋駅1b出口 徒歩3分
観覧料	一般500(400)円 大学生250(200)円 * 高校生以下および18歳未満、65歳以上、「MOMATパスポート」をお持ちの方、友の会、賛助会員、MOMAT支援サークルパートナー企業(同伴者1名まで、シルバー会員は本人のみ)、キャンパスメンバーズ、障害者手帳をお持ちの方とその付添者(1名)は無料 * ()内は20名以上の団体料金。いずれも消費税込 * 17時以降の入館は「MOMATコレクション」観覧料が一般300円、大学生150円になります。 * 7月19日－10月6日17時以降は、大学生無料 * 本展の観覧料で、 入館当日に限り 、工芸館 所蔵作品展「デザインの(居)場所」(6/4－6/30)、「みた？—こどもからの挑戦状」(7/13－9/1)もご覧いただけます。
無料観覧日	毎月第一日曜日(7月7日、8月4日、9月1日、10月6日) * 所蔵作品展「MOMATコレクション」のみ (企画展「高畑勲展—日本のアニメーションに遺したもの」は観覧料が必要です。)
お問合せ	03-5777-8600(ハローダイヤル) https://www.momat.go.jp (ホームページ)
同時開催	企画展ギャラリー(1F) ◆「高畑勲展—日本のアニメーションに遺したもの」 2019年7月2日[火]－10月6日[日] 観覧料: 一般1,500(1,300)円 大学生1,100(900)円 高校生600(400)円 * 中学生以下、障害者手帳をお持ちの方とその付添者1名は無料。 * ()内は20名以上の団体料金。いずれも消費税込。 * 「高畑勲展—日本のアニメーションに遺したもの」の観覧料で、当日に限り、所蔵作品展「MOMATコレクション」もご覧いただけます。